

第3次方針骨子案について

船橋市教育委員会 文化課

第3次方針骨子案 (めざすべき姿・基本目標・施策)

基本目標 I

文化芸術と出会う
きっかけづくり

- ・施策① 文化芸術と市民をつなぐ場づくりの推進
- ・施策② 文化芸術情報の見える化と周知の強化

基本目標 II

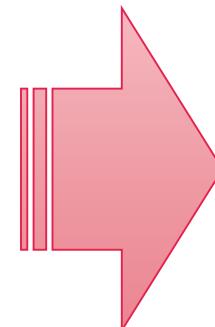
文化芸術を体験する
基盤づくり

- ・施策① 文化芸術活動を支える基盤整備と充実
- ・施策② 次世代の育成・多様性の尊重

基本目標 III

船橋の文化芸術・地域資源を活かした魅力づくり

- ・施策① 地域の音楽やアート、文化財を通じた魅力の醸成
- ・施策② 他分野と連携した施策の展開

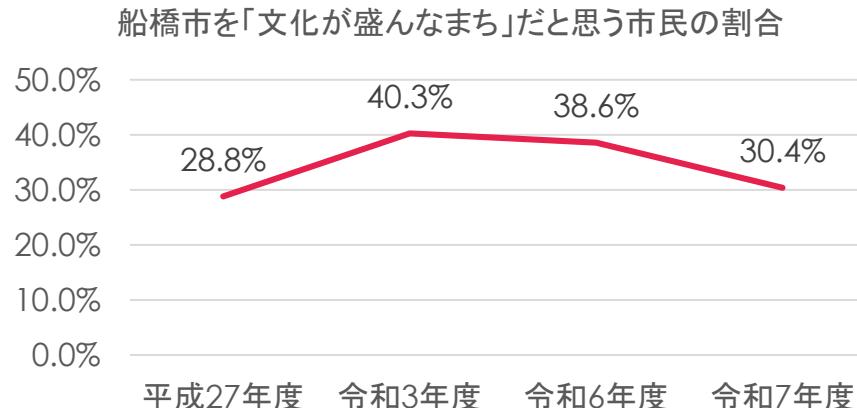


めざすべき姿

誰もが文化芸術
に触れ、活動で
きる船橋

なぜ第2次方針の4つの基本目標を 今回改めるのか

- A) 文化財の保存・活用の詳細は「史跡取掛西貝塚保存活用計画」と「船橋市文化財保存活用地域計画」に位置付ける
- B) 総合指標の割合が減少傾向(左下図)であるなど、市の取組が市民に伝わっていない。
 1. 既存の理念や考え方を継承しつつ、アップデートする
 2. より具体的に、わかりやすい文言にする
 3. 文化芸術基本法をより意識した作りにする



方針	第2次方針	第3次方針
基本目標Ⅰ	気づき始まる	文化芸術と出会うきっかけづくり
基本目標Ⅱ	学び楽しむ	文化芸術を体験する基盤づくり
基本目標Ⅲ	育みつながる	船橋の文化芸術・地域資源を活かした魅力づくり
基本目標Ⅳ	活かし伝える	基本目標Ⅲに集約

第2次方針を振り返り(課題)

市民団体との意見交換会や協議会での事業評価などを経て、第2次方針の課題を以下のとおりに集約。

1. 総合指標の結果が減少傾向。
2. 高齢者、障害者、外国人など多様な市民が、文化活動に「参加しやすい」環境の整備が十分とは言えない。
3. 観光、まちづくり、国際交流、福祉、産業など幅広い分野とのつながりを意識しながら施策を展開しているものの、連携はまだ不十分なため、組織体制の見直しが必要。
4. 「あらゆる人々が文化・芸術活動に参加できる環境の整備」については、さらに幅広いアーティスト・団体への支援が必要。
5. 次世代の育成として小中学生の体験機会拡充に努めたが、若年層の文化芸術活動の支援も必要。
6. 市民からハード(美術館、音楽ホール等)の整備を求める声が寄せられているが、ハードの整備については触れられていない。

第3次方針の策定に向けた市民の声 (アンケート結果)について

文化芸術への高い関心・鑑賞状況:

この1年間に何らかの文化芸術を鑑賞した市民は86.3%で、9割近い高水準。文化芸術の鑑賞に「関心がある」と答えた割合も78.7%に達し、特に若い世代ほど高い傾向である。

鑑賞・活動を妨げる要因と求められる環境:

鑑賞しなかった理由では「時間がない」「興味ある催しがない」がともに24.0%、「情報が得られない」が16.0%であった。一方、鑑賞しやすくする条件として「居住地の近くで鑑賞できる」が63.7%で最多である。

活発な文化芸術活動と担い手の課題:

文化芸術活動の実施率は39.1%で、全国平均(13.6%)を大きく上回っている。特に音楽分野が盛んだが、文化芸術団体では会員の平均年齢が60代以上と回答した団体が多く、担い手の循環が今後の課題として共有されている。

情報発信・認知と今後の期待:

市の文化振興で力を入れるべき取組として「文化芸術に関する情報発信の充実」は48.9%で最多。また、文化芸術を活かしたい分野として「まちづくり・地域活性化」が53.2%と最も高く、他分野連携への期待が数値にも表れている。

自由記述のまとめ

■ 鑑賞・体験機会の充実と誰もが参加しやすい環境づくり:

子どもから高齢者、障害のある方まで、誰もが文化芸術に触れられる機会の充実を求める声が多く見られた。特に、身近で気軽に参加できる体験や鑑賞の場が、文化への関心や理解を育てる基盤になるという共通認識が示されており、参加しやすさに配慮した取り組みへの期待が表れている。

■ 高齢化を踏まえた文化芸術活動の継続と世代継承:

文化活動の担い手の高齢化を課題としつつ、文化芸術が生きがいや健康、交流につながっているという前向きな認識が多く示されている。一方で、若い世代につなぐ難しさも共有されており、世代間交流や無理なく参加できる仕組みづくりを通じて、文化を継続的に育ていきたいという意識が読み取れる。

■ 交流・情報発信を通じた広がりへの期待:

サークル間や地域内外の交流、情報発信の充実を通じて、新たな参加や刺激が生まれることへの期待が多く寄せられた。市の広報やSNSなどを活用し、「知るきっかけ」「参加しやすさ」を高めることで、文化芸術活動がより開かれたものになることが望まれている。

■ 文化活動の場・施設に対する期待と工夫への要望:

多くの意見から、市民が日常的に文化芸術活動や発表を行える「場」の重要性が伺える。新たなホールや美術館といった拠点整備への期待に加え、公民館や既存施設をより使いやすくする工夫、身近な場所での発表機会の充実を望む声が多く見られた。大規模整備に限らず、既存資源を活かした段階的な改善や柔軟な活用への期待が共通している。

第3次方針の策定に向けた市民の声 (アンケート結果)による課題

- **高い関心・鑑賞率の維持・拡大、参加につなげる工夫**

本市では文化芸術への関心や鑑賞率が高く、特に若い世代ほど関心が高い傾向が見られる。一方で、時間的制約や情報不足などにより、関心があっても参加できていない市民も一定数存在する。多くの市民が文化芸術活動に参加できる取り組みが必要。

- **市民主体の活動を支える場・施設の確保、担い手の循環**

音楽を中心に、市民主体の文化芸術活動は活発に行われている。一方で、団体の高齢化や、活動の継続・次世代への継承が課題となっている。新たな参加者が関わりやすい仕組みづくり、活動内容に応じた場・施設の確保が必要。

- **情報発信の工夫と認知の向上**

市の文化芸術イベントや市ゆかりのアーティストについて、市民への認知が十分とはいえない。世代ごとに異なる情報取得手段を踏まえ、広報紙やSNS等を活用した効果的な情報発信が求められる。

- **誰もが参加しやすい環境づくりと他分野との連携**

年齢や障害の有無にかかわらず文化芸術に参加しやすい環境づくりへの期待が示されている。併せて、文化芸術をまちづくりや地域活性化などと連携させる視点が求められている。

めざすべき姿について

めざすべき姿及び次ページ以降の基本目標及び施策については、委員の意見、市民アンケート結果、第2次方針の課題を総合的に勘案し、案を作成

「めざすべき姿」の候補(案)

誰もが文化芸術に触れ、
活動できる船橋(松本委員の提案)



姿の文言	イメージ	委員からの意見
「誰もが」	幅広い世代、多様な市民を対象とする包摂性	<ul style="list-style-type: none"> ➢ クリエイティブ・エイジング(太下委員・中村委員) 子どもの文化芸術にとって良い環境を作る(石井委員) ➢ 心の栄養は文化活動である(小野木委員)
「触れ」	文化芸術の鑑賞や参加の機会(アクセス)の創出	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「見る・聞く」機会を増やすことが「参加する・やってみる」につながる(小野木委員) ➢ コンテンツブランドに接触するタッチポイントを増やす(増田委員)
「活動できる」	個人・団体・アーティストが継続的に創造・表現できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 文化芸術の本質は生の時間と空間を共有すること(小野木委員・太下委員) ➢ 気軽に集える場所づくりなど、アーティストをつなぐマッチングや交流の場を期待(田中委員) ➢ 文化芸術活動の拠点となる文化施設が必要(石井委員・菅野委員・菅根委員・高屋委員・増田委員)

基本目標Ⅰ「文化芸術と出会いきっかけづくり」について

※今回の議題の対象は「基本目標」及び「施策」についてです。
施策にぶら下がる具体的な実施内容については、予算も影響することから、現時点では、例(イメージ)となります。

施策① 文化芸術と市民をつなぐ場づくりの推進

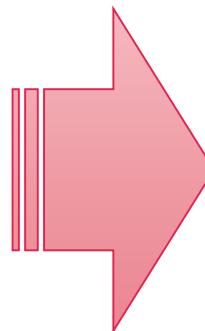
例)各地域でのコンサートイベントの開催

例)オンラインでの文化芸術鑑賞の充実

施策② 文化芸術情報の見える化と周知の強化

例)情報発信の強化と整備

例)市ゆかりのアーティストや文化情報をオンラインで情報発信



位置づけ	「めざすべき姿」候補(案)の『触れ』を担う目標。
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民の誰もが新たな文化芸術活動に出会ったり、触れたりするためのきっかけや機会を増やしていきます。 ○ 船橋市を拠点に活動しているアーティストや市内の文化芸術イベントを積極的にPRし、市民と文化芸術をつなげていきます。
市民アンケート結果などから分析	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 高い鑑賞率・活動率にも関わらず、総合指標が減少傾向 ✓ 文化芸術活動を行わない理由は「きっかけがない」。 ✓ 文化芸術に関する情報提供のニーズが高いにも関わらず、市内イベントやアーティストの認知度が低い。 ✓ SNSや広告を活用した情報発信の強化を求められている。
委員からのご意見	<ul style="list-style-type: none"> △ 「見る・聞く」機会を増やすことが「参加する・やってみる」につながる(小野木委員) △ コンテンツブランドに接触するタッチポイントを増やす(増田委員) △ 情報発信の強化と整備(菅根委員・菅野委員・高屋委員・中村委員・増田委員)

基本目標Ⅱ「文化芸術を体験する基盤づくり」について

施策① 文化芸術活動を支える基盤整備と充実

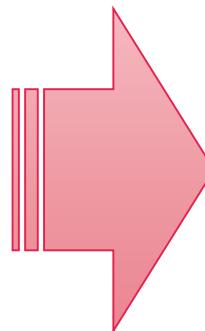
例)多様な文化芸術団体・個人に対しての支援

例)文化芸術活動の場の整備

施策② 次世代の育成・多様性の尊重

例)新たな担い手の育成

例)年齢や障害の有無に関わらず文化芸術を楽しめる環境づくり



位置づけ	「めざすべき姿」候補(案)の『活動できる』を担う目標。
趣旨	市民の誰もが、生涯を通じて文化芸術活動に取り組める環境を整備し、アーティストや個人、文化芸術団体の自主的な活動を支援する仕組みを構築していきます。 ✓ 文化施設の整備・充実のニーズが高く、活動内容に適した活動場所が不足している。 ✓ 気軽に参加できるイベントや体験機会の増加。 ✓ 子どもから高齢者、障害のある方まで、誰もが文化芸術に触れられる機会の充実 ✓ 活動資金の援助や補助金制度の充実
市民アンケート結果などから分析	◆ 文化芸術の本質は生の時間と空間を共有すること(小野木委員・太下委員) ◆ クリエイティブ・エイジング、社会的処方(太下委員・中村委員) ◆ アーティストの相談窓口を設置(太下委員) ◆ 次世代に繋がる育成環境の整備推進(菅野委員) ◆ 将来の子供たちのため環境づくり(石井委員) ◆ 市ゆかりのアーティストや文化芸術団体を網羅的に紹介する仕組みづくり(松本委員) ◆ 気軽に集える場所づくりによりマッチングや集まれる交流の場が欲しい(田中委員) ◆ 热心に活動したいアーティストと地域をつなぐマッチング機能を期待したい(田中委員) ◆ 新たなランドマークとなりうる場の創造と実現(菅野委員) ◆ 市民文化ホールと中央公民館が2年間閉まることがへの対応が、市民の活動率が高いからこそ切実な課題(太下委員・松本委員・妹尾委員・高屋委員)
委員からのご意見	

基本目標Ⅲ「船橋の文化芸術・地域資源を活かした魅力づくり」について

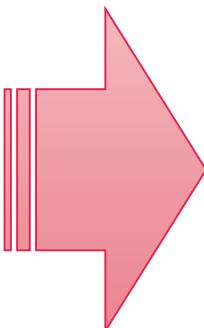
施策① 地域の音楽やアート、文化財を通じた魅力の醸成

例)市所蔵作品や地域の文化財の活用

例)活発な市民の文化芸術活動の情報発信

施策② 他分野と連携した施策の展開

例)まちづくり・観光・福祉などの他分野との連携



位置づけ	3つの基本目標の最終段階であり、基本目標Ⅰ・基本目標Ⅱで育まれた文化芸術の価値を地域全体に広げ、市民の誇りや魅力の創出につなげる役割を担う目標。
趣旨	市ゆかりのアーティストの活動を支援したり、市所蔵作品、文化財等を展示したりすることで、市民が多様な文化芸術に触れ、船橋の文化・歴史に対する理解を深めるだけでなく、文化が他分野と連携することで、市の魅力をさらに向上させ、シビックプライドの醸成を図ります。
市民アンケート結果などから分析	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域資源(市内イベントやアーティスト)の認知度が低い。 ✓ 文化芸術により生み出される価値を活かしたほうが良いと感じる分野は「まちづくり・地域活性化」をはじめ多岐に渡る。 ✓ 異なるジャンル間の交流を求められている。 ✓ 文化芸術により生み出される価値を他分野と連携して活かすことで、その効果が社会全体に波及し、より良い効果が期待されるが、本市はその施策展開が不十分。 ✓ 日常的に文化芸術活動や発表を行える「場」の充実
委員からのご意見	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 地域資源にアーティストが多いことを書いてほしい(松本委員) ❖ 文化芸術と経済や観光との関係性を具体的にどう考えているか、その先に何を求めるのかをはっきりさせることが大事(小野木委員) ❖ 文化的価値と経済的価値は別のもの、文化が手段で経済が目的というのではなく転倒(菅根委員) ❖ 文化芸術がツール・手段というふうに聞こえることが問題。文化芸術が振興することによって結果として経済の好循環が生まれる位置づけなら問題ない(妹尾委員)